

金曜の会

- 1 期日 10月11日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 TA,HA,YO,AK,AR
- 4 内容

〈前半〉

- ・授業記録「ごんぎつね」(AR)

「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」とどなりたてられたごんが何にびっくりしたのかを課題にした授業の本の序盤の短い記録です。うなぎがきゅっとまきついたのと同時にどなりたてられたから飛び上がるほどびっくりたたという意見が出て、「そのとたん」でつながっている分、授業者も捨てきれず、分類整理をしづらかったという面はあります。ただ、いつも共通して言えるのは「迷い」です。今回、出だして「ぬすんでいるのがばれたから。」という意見が出て「ぬすんでいないのでは」という反論が出ました。間髪入れず他の子が全く別の意見を出したため、そのまま流れてしまいましたが、こういう重要な要素を含んだ意見が出たら、次の発言を止めてでも少なくとも対立問題にしておくところまではやっておくべきだと思いました。その他にも、子どもは大きな声とは別の要素があるという方向性を出していたのにもかかわらず、このまま展開させてよいものか「迷い」、ダラダラと意見を出し尽くさせようとして、授業を混迷させてしまう。そのうちに子どもの追求意欲も萎えてしまう。「迷い」が自分の授業を邪魔している要素だと再確認しました。次は、子どものに迷わず食いつくことを、目の前の課題として実践してみたいと思います。文責 AR

〈後半〉

- ・大地讃頌・側転・ストレッチ映像(MO・YO)
- ・ごんぎつね・カエル足打ち映像(AK)

大きな前回りをする前に、カエルの足打ちをして腕の力をつける。腕の力だけでなく、逆さ感覚も身に付けていくと思います。自分の腕で自分の体を支える力は不可欠です。側転の指導と合わせて、M先生に教えていただいたカエル立ちも、腕の支えにつながります。

M先生・C先生をお迎えした日の映像から、いろいろなことが見えました。驚きの連続でした。ストレッチでは、息をはきながら足を開くこと。側転に恐怖心を持っている子どもに、腕の支えと逆さ感覚を身に付けさせるために、カエル立ちや倒立をさせること。あれから、教室では休み時間にカエル立ちをする子どもがたくさんいます。側転では、線上に手手足足を意識して置くことも、子どもたち

にうんと自覚させる必要がありました。他にも、たくさんの練習やポイントを教えていただきました。大地讃頌の指導も、驚きの連続でした。何と云っても、森川先生が子どもに向かう声と表情が明るいこと、表現の指導にはとても大切なことだと思いました。口の中に卵を1こ入れた状態をキープしながら歌うことを子どもに伝え、歌った後で点検すること、自分には足りなかったところです。また、音を正確にとるためにテンポアップしたり、スピードに変化をつけたりすることなども、有効だと分かりました。

教師として学ぶことは、まだまだたくさんあると、改めて思いました。文責 YO